

令和2年10月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.17

～木製建具（玄関扉）のデザイン～



うみ：あなた。玄関の立て付けが悪いんだけど、ちょっと見てくれる？

建吉：おう。どれどれ。う～ん、こりゃあ戸車が壊れとるのお。下の板も大分傷んどるけえ、建具屋を呼んだ方がええかもしれんのお。



うみ：近ごろ、戸車のいい音がしなくなったと思ってたのよ。

建吉：あの、ガラガラっちゅうのがええんよのお。

うみ：最近は皆さんアルミサッシ

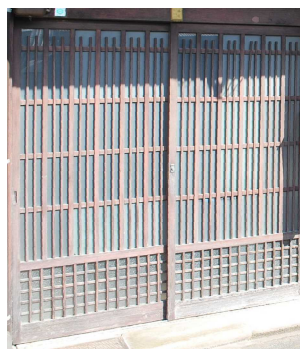
の玄関戸にされてるから、あの音を聞くことがなくなったわね。

マイク：こんにちは。あれっ、玄関が開かない。

うみ：マイク、いらっしやい。今ね、玄関扉を直す相談をしていたのよ。アルミ扉は風情が無いからいやだし、なんとか直したいと思って。

マイク：そうでしたか。僕もこの扉好きです。格子のデザインはいろいろあるみたいですね。

建吉：うちのは割と多いデザインじゃろう。格子の間隔が広いのやら、親子格子になっとなるものもある。おもしろいのは、横の^{さんぎ}棧木にいろいろパターンの違うんがあるところじゃ。



マイク：そう言われると、建吉さんところは、等間隔に上から1本ずつの横残があって、一番下は2本の横棧がありますけど、下の横棧がたくさんある扉を見たことがあります。

建吉：宮島の玄関扉と言やあ、^{おおど}大戸じゃが、マイクは大戸を知ったかいのお。

マイク：知ってます。知ってます。魚之棚にある復元町家で見ました。とても良かったです。



建吉：マイクは、どんどん宮島通になっていくのお。鹿戸のある門は見たか。

マイク：えっ、鹿戸の門ですか。それはどこにありますか。

建吉：塔之岡の近くにある建物の門に、鹿戸と板戸の組み合わせがあるんじゃ。

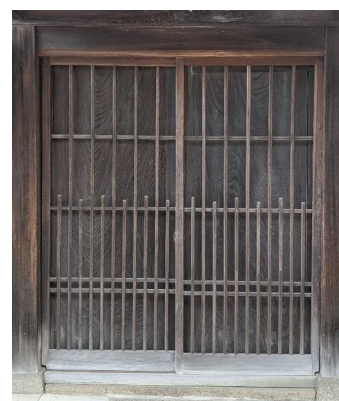
マイク：はいはい、見ました。板戸の木目がきれいでしたし、親子格子になっておもしろいデザインだなと思っていました。

建吉：そうじゃ、そうじゃ。あの鹿戸の格子は実に見事なデザインじゃ。縦横の棧のバランスが全体の大きさとマッチして実にええのお。

うみ：扉談義はそれぐらいにして、建具屋さんに修理の連絡して下さいな。

建吉：おお、そうじゃった。すまんすまん。

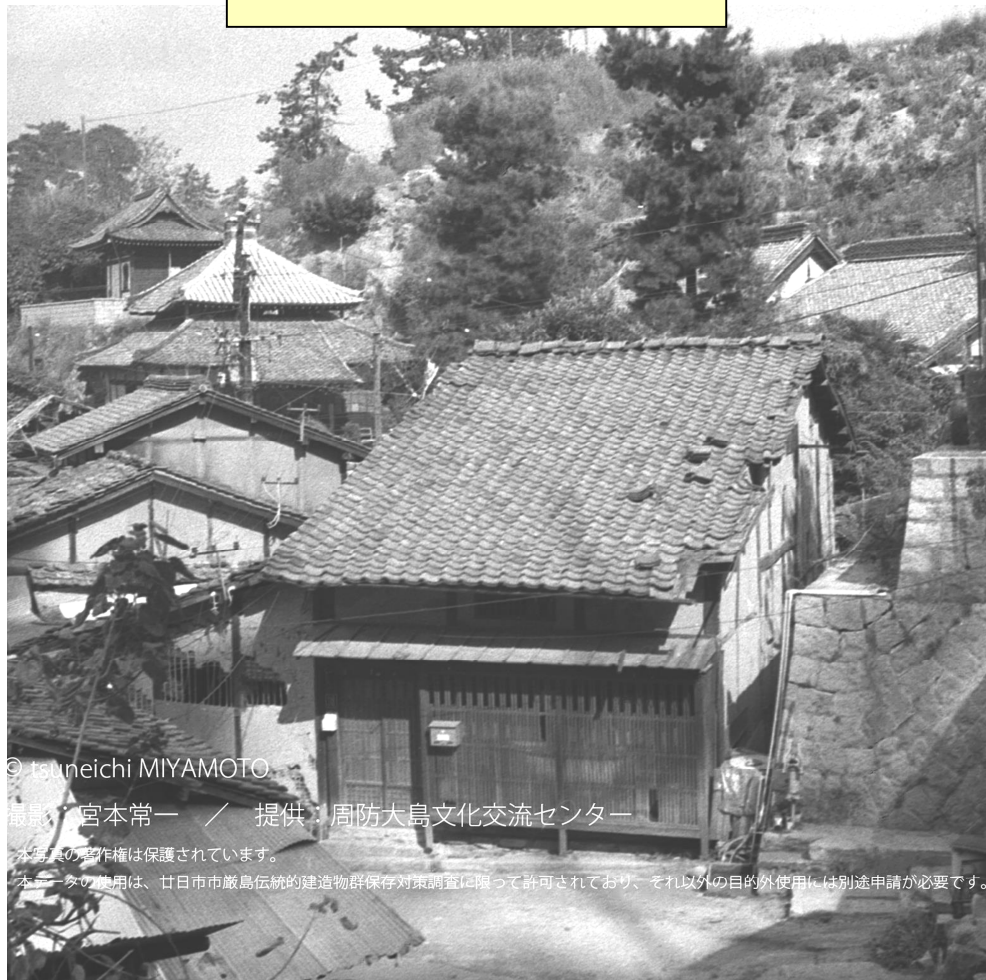
【次回は外壁の特徴です】



今昔写真を見比べて

右の写真は、昭和40年頃の魚之棚町の山辺の小径を、東に見たところです。正面の平屋は板庇に出格子の風情ある町家が見えています。左上には宝寿院の本堂（護摩堂）の屋根が見えています。更にその右側の木の右に宝寿院敷地内の客殿と庫裏の大きな瓦屋根を見ることができます。

下の写真は現在の写真です。正面の家は解体され、空き地になっています。宝寿院は以前の台風により、屋根に大きな被害があり、本堂は一部を葺き替え、客殿・庫裏は仮復旧としてトタン葺きになっています。その裏山も石積みなどで補修されています。手前の石段も、以前よりは歩きやすく整備されています。



© Isuneichi MIYAMOTO

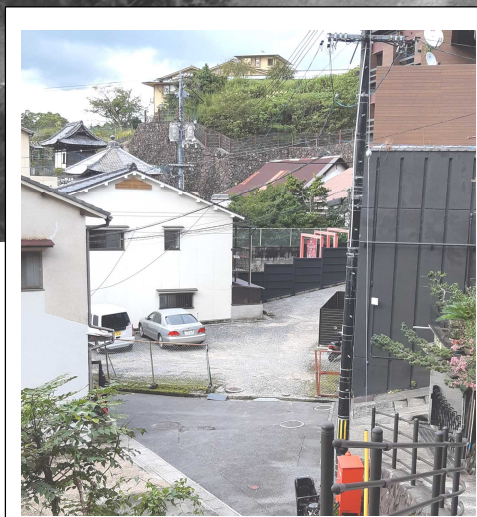
撮影：宮本常一 / 提供：周防大島文化交流センター

本写真の著作権は保護されています。

本サイトの使用は、廿日市市厳島伝統的建造物群保存対策調査に限り許可されており、それ以外の目的外使用には別途申請が必要です。

伝建保存事業（補助金交付）を実施しています

今年度も伝建保存事業を行っています。大和町の岩村邸（アートイン）では、市の補助金を活用した修理を行っています。外部を昔ながらの木製建具に替えたり、雨漏りのひどい屋根の修理をしています。修理の詳細は後のまちなみ通信でお知らせします。



研究会への活動協力をお願いします

市の補助金交付団体のいつくしま・まちなみ研究会が、古民家の調査を行っています。ご理解ご協力をお願いします。

現状変更についてご相談下さい

伝建の制度が始まって約1年あまりが経過しました。地区内の皆さんには、まちづくりにご協力をいただき感謝しています。小さな工事でも事前に市都市計画課へご相談いただければ、手続きの有無を含め、手戻り無くスムーズに事業ができるようお手伝いしますので、事前の連絡をお願いします。

まちなみ通信 No.17（令和2年10月1日）発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和2年11月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.18

～外壁のデザイン～



うみ：朝夕は寒くなってきたわねえ。

建吉：夕方は早ように日が沈むようになったのお。

みらい：私、外で遊ぶ時間が短くなっちゃった。

建吉：みらいは遊ぶ時間が短こうなったか。じいちゃんも仕事が早仕舞いじゃわい。

うみ：そう言えば、近くの民家改修工事の左官屋さんも、「色がよう見えんようになるから早仕舞」って言っていたわね。

建吉：そうそう、あそこの真壁の漆喰は、白漆喰だけじゃあのおて、ねずみ漆喰も使おとるけえ色の具合が微妙じゃけえの。明るうないと困るじゃろう。



しろしっくい
白漆喰



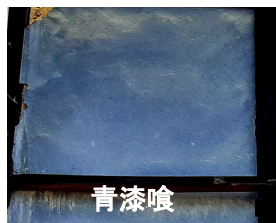
ねずみしっくい
鼠漆喰

みらい：ねずみしっくいってなに。ネズミの絵が描いてあるの。

建吉：ねずみ漆喰はのお、漆喰の材料に墨を混ぜて灰色にしたものじゃ。墨の量を調節して濃くしたり、薄くしたりするんじゃな。ほとんどの家は白漆喰にするんじゃがの。

みらい：そうだ、おじいちゃん。私、青い壁を見たよ。どこだったかなあ。

建吉：みらいはよう見とるのお。宮島の中にも何件か青い壁に塗ったところがあるんじゃ。



青漆喰

青漆喰は、群青と言う顔料を混ぜたもんじゃな。

うみ：漆喰壁は昔からの伝統だから、日本の気候に合うんでしょ。

建吉：漆喰の内側は土が塗ってある。湿度を調節する機能があるけえ、夏は涼しゅうて、冬は暖かい、梅雨時はジメジメが緩和されとるんじゃ。

うみ：日本人はよく考えたものねえ。

みらい：ねえねえ、さっきおじいちゃんが言った、「しんかべ」ってなに。

建吉：よう聞いとったのお。真壁はのお、柱や梁は直接見えて、その間に壁を塗ったものじゃ。近頃は「大壁」言うて、柱が見えんで、壁が一面に見えるものが多いのお。



しんかべ
真壁



おおかべ
大壁

みらい：お友達の家は、横の壁に板が張ってあったよ。ちょっと焦げてたかなあ。

建吉：あれは、焼杉仕上げと言うて、杉板をわざと焼くんじゃ。焼いた後磨くけえ、表面につやが出て水をはじいたり、木が腐りにくくなったりするんじゃ。これも日本の昔からの伝統的な建築技法かのお。

もみじ：こんにちは。みらいがお世話になりました。今日はみらいが町家の生徒さんだったのかしら。何を教えてもらったの。

みらい：ねずみしっくいと焼杉だよ。おかあさんにも教えてあげる。

うみ：お父さんの講義より、かわいい先生の方がいいわね。

もみじ：そうね、みらい先生お願いします。

【次回は塗装の特徴です】

今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和41年頃の旧宮島支所前から山本寅吉商店の方向を見たところです。塔之岡隧道の施工前で、道路は舗装がされていないようです。下の写真は現在の様子です。隧道の施工により地盤がかなり下がっており、塔之岡に登る石段から撮影しています。山本寅吉商店の看板や、正面の奥の家の庇や窓がほとんど変化なく見ることができます。電柱類は地中化が進みスッキリした景色になっています。中央の看板の乗った庇は、手前の部分が三角にカットされています。現在は車の往来が多くなり庇に接触することがあるようです。新しい便利さのために、昔の風景が少しずつ変化しているようです。



宮島の町並みの魅力や、特徴を紹介した動画を公開しています



インターネットで「宮島 まちなみ 動画」と検索してください。結構いい具合に仕上がっています（笑）。下のQRコードからもアクセスできます。ぜひご覧ください。



参加者募集 宮島まちづくり未来ゼミ（全4回）

これからの宮島を考えるためのセミナーを開催します。

「宮島ブランディングの可能性」

～地域資源を活用した次世代のまちづくり～

講 師：吉田博詞（（株）地域ブランディング研究所代表取締役）

と き：11月24日（火）18時

ところ：宮島市民センター 3階研修室

定 員：15人（申込み順）

申込み・問合せ：宮島まちづくり企画室 TEL (0829) 30-9119

まちなみ通信 No.18（令和2年11月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和2年12月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.19

～塗装の特徴～



伝太郎：ううう～っ。寒くなって来たなあ。

もみじ：寒さで、山の紅葉はいい色になっているわねえ。今年はきれいだわ。

伝太郎：ホントにいい色だね。宮島は昔の風情が残っていて、紅葉がよく似合うよね。

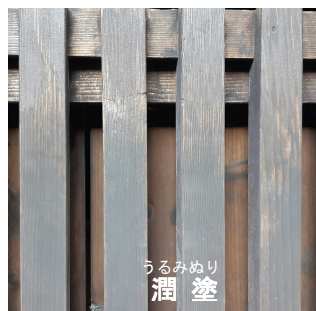
もみじ：そう言われると、昔の建物の色ってどんな感じだったのかしら。先月も塗装調査しているところを見たけど、「色が見えにくくなっていて、判断が難しい。」って、言われていたわ。



伝太郎：そうだね、何十年も前に塗った塗料を調べるのは大変だろうね。紫外線や雨の影響とかいろいろあるだろうからね。

みらい：おじいちゃんの家は、^{うるみぬり}潤塗だって言ってたよ。

伝太郎：えっ、うるみ塗り？ 弁柄塗（ベンガラ）は聞いたことがあるけど、うるみは何か？



みらい：あのね、調べてたおじいちゃんが言ってたけど、赤色のベンガラと、^{すみ}黒色の墨を混ぜたものだって。墨はね、よくわからないけどショウエンだって言ってたよ。

伝太郎：それはね、^{しょうえん}松煙のことだろうね。わかりやすく言うと、習字の時にすずりにこする小さな黒い棒があるだろ。あれが^{しょうえんすみ}松煙墨だけど、ベンガラに混ぜて使っていたんだね。

もみじ：そうすると、ベンガラよりも少し黒っぽい色だったのかな。お父さんの家はすっかり色が変わって、何も塗っていないように見えるわ。

伝太郎：昔の色が復活するとずいぶんと感じの違

う通りになるんだろうね。

もみじ：お父さんの家は潤塗りだったけど、黒い感じのものも、赤みがかかった家もあるわね。

みらい：^{かきしぶ}柿渋もあるんだって。



伝太郎：みらいはよく聞いているなあ。他にもあるのかなあ。

みらい：えっとねえ、ベンガラ塗りとね、墨が塗ってあるところがあるって。他にはねえ、黒勝ち、赤勝ちって言っ

てた。どういうこと。

伝太郎：それぞれの家で、いろんな場合があるんだね。黒勝ちじゃなくって黒味勝ちだと思うよ。黒味勝ちって言うのは、黒い墨をたくさん混ぜて黒っぽい、赤味勝ちには赤いベンガラをたくさん混ぜて赤っぽいってことだろうね。

もみじ：古い写真を見ても白黒だから色がよくわからないけど、少しずつ違っていたのかもしれないわね。

みらい：ねえねえ、どうして色を塗るの。

伝太郎：えっ、そもそもがわかってなかったのか。ベンガラ塗りで言うとね、土の中にある酸化鉄が主な成分で、木材の虫除けや・腐りにくい効果があるんだ。ベンガラは、体に影響が少ないからね。それに色を付けているってことは、昔の人って、自分なりの色を注文したんだろうね。



もみじ：まだ少しだけ色が残っている町家もあるし、また新しい散歩の楽しみができたわ。

みらい：あたしもお散歩行く～。

【次回は底の特徴です】

今昔写真を見比べて



上の写真は、大正7年の南町、岩惣本店前から厳島神社社務所方向を写したものです。右の店舗の看板は「小林一松堂物産部」となっていますが、現在の「つただに仙岳堂」の位置になります。正面の突き当たりの看板は「岩惣」の文字が読めます。軒先に並ぶ多くの土産物から観光地として賑わいが伺えます。下の写真は現在の様子です。道路は舗装されましたが、わずかな段差は変わらず残っています。（上の写真の電柱の所）



宮島の古い写真を集めています【募集】

宮島で撮影された古い写真を集めています。町並みを再現する参考や、昔の生活を知る手がかりにしたいので、ご協力をお願いします。預かった写真は写しを取ってお返しします。また、プライバシーに関わるものは取り扱い注意で別保管させていただきます。特に場所や時代がわかるものと助かります。都市計画課又は、宮島市民センターまでご連絡ください。締切はありませんので、いつでもお持ちください。待ってま〜す。

参加者募集 第2回 宮島まちづくり未来ゼミ（全4回）

「人口減少時代における宮島のまちづくり」

講師：(株)日本総合研究所主任研究員 藻谷 浩介

とき：12月8日（火）18時

ところ：宮島市民センター 3階研修室

定員：15人（申込み順）

申込方法：Google フォームかメール、ファックスで次の①～⑤を記載

①名前②所属③電話番号④メールアドレス⑤参加方法（A会場参加、BZOOM視聴）

申込み・問合せ：(株)地域ブランディング研究所

E-mail: ciki_soiution@chibura.co.jp

FAX: 03-6732-3140 TEL: 03-6732-3140（担当：土井）

主催：宮島まちづくり企画室 TEL (0829) 30-9119



Googleフォーム



まちなみ通信 No.19（令和2年12月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

宮島の町並みの
紹介動画を公開中

「宮島まちなみ」で検索

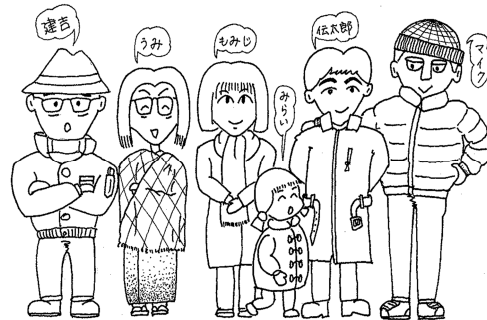


令和3年1月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.20

ひさし
～ 庇 の特徴～



伝太郎：あけましておめでとうございます。この「まちなみ通信」も発行が始まって、3年目に入りました。これからも宮島の魅力や楽しい話題を、家族とともに提供していきますので、よろしくお願いします。

家族一同：よろしくお願いします～す。



伝太郎：去年はコロナ禍の特別な年になったけど、今年は早く普通の生活に戻りたいね。

もみじ：そうね。お母さんのところのお店は収入が半分以下だったみたいね。

うみ：うちは年金生活プラスお店だから贅沢は言えないけど、皆さんは大変みたいね。

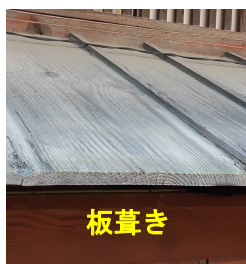
建吉：ただいま。みんな集ってよかったか。明けましておめでとう。みらい、お年玉じゃ。

みらい：わーい。おじいちゃんありがとう。

もみじ：あけましておめでとう。お父さん作業着だけど、正月早々で仕事だったの？

建吉：なじみの所の^{ひさし}庇が車に当たって少し痛んだんで、ちょこっと修理してきたわい。板^{いたひさし}庇の上に鉄板が乗っ取るのがちょっとめくれたのお。

伝太郎：元は、板のままだったんですか。



建吉：そうよ。昔はほとんどが板庇じゃったが、今は雨仕舞いが悪いし板が痛むけえのお。その上に鉄板を張っとるんじゃ。

伝太郎：宮島の町家は庇が付いている家が多いけど、あれって付けなくちゃいけないんですかね。

建吉：そうなんじゃ。宮島の基準として、階の間には庇を付けることになっとる。

みらい：おじいちゃん、どんな庇でもええん？

伝太郎：^{かわら}瓦が乗ってる庇もたくさんあったような気がするなあ。

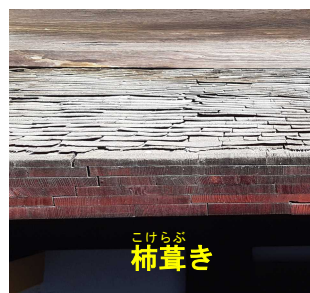
もみじ：どちらかというと、瓦の方が多いんじゃない。お父さんの家も瓦じゃない。

伝太郎：あっ、そうだね。

建吉：今は瓦が多いのお。雨仕舞いもええし、見栄えもええからじゃろうが、宮島の庇は板庇が似合うんじやがのお。

みらい：お友達のおばあちゃんちは、板が何枚も重ねてある大きな庇だったよ。

建吉：みらいはよう気がつくのお。お屋敷とか大きな



^{こけらぶ}な旧家は庇に柿葺きとゆうて、板を何枚も重ねた豪華な庇が付とる。

もみじ：私も見たことあるけど、^{こけらぶ}柿葺きって言うの

ね。覚えておいて、今度みんなに自慢しちゃお。

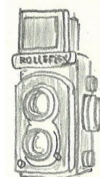
みらい：お母さんずる～い。あたしもお友達に自慢するう。

【次回は門・塀の特徴です】

今昔写真を見比べて

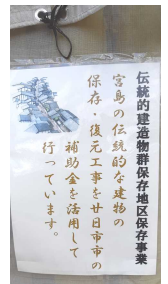


上の写真は、明治時代の表参道商店街の様子です。道路は未舗装で、行き交う人は着物姿です。下の写真は、現在の商店街の様子です。アスファルト舗装され、コロナ禍でみんなマスク姿です。右の電柱がほぼ同じ位置で建て替えられています。正面に五重塔が変わらぬ姿で見えています。百年前から道路上のテントによる日よけは、変わりがないようです。写真中央に「ふろ」の看板が見えますが、商売は百年経つと様変わりするようです。



伝建保存事業（補助金交付）を実施しています

今年度は2件の伝建保存事業を行っています。久保町の福田邸（福田屋商店）では、市の補助金を活用した修理を行っています。2階の外部を昔ながらの縁側に替えたり、店舗のシャッターを木製建具の防犯戸に変更する修理をしています。修理の詳細は後のまちなみ通信でお知らせします。



参加者募集 宮島まちづくり未来ゼミ（全4回）

第3回「歴史的まちなみの活用」

講師：一般社団法人ノオト理事 ^{ふじわら} 藤原 ^{たけし} 岳士氏

と き：1月26日（火）18時

第4回「宮島ブランディングとまちづくり組織」

講師：JTIC. SWISS 代表 ^{やまだ} 山田 ^{けいいちろう} 桂一郎氏

と き：2月4日（木）18時

ところ：宮島市民センター 3階研修室 定員：15人（申込み順）

申込方法：Google フォームかメール、ファックスで次の①～⑤を記載

①名前②所属③電話番号④メールアドレス⑤参加方法（A会場参加、BZOOM視聴）

申込み・問合せ：（株）地域ブランディング研究所

E-mail: ciki_soilution@chibura.co.jp

FAX: 03-6732-3140 TEL: 03-6732-3140（担当：土井）

主催：宮島まちづくり企画室 TEL (0829) 30-9119

Googleフォーム



まちなみ通信 No.20（令和3年1月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

宮島の町並みの紹介動画を公開中

「宮島まちなみ」で検索



令和3年2月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.21

もん へい
～門・塀の特徴～



マイク：雪化粧の厳島神社、見たかったです。

伝太郎：こんなに冷え込んでいるのに、雪化粧にならないのは残念だね。

もみじ：私が子供の頃はもっと雪が降る日が多かったけど、だんだん降る回数も、積もる量も少なくなってるわ。

伝太郎：日本海側の災害級の大雪のニュースを見ると、「きれいだね」「見たかった」って言うのも、慎まないといけない気持ちになるよね。

マイク：雪の多い地方の家は、門や塀はあるのかな。雪かきする時どうやって雪を出すのかな。

もみじ：そう言われると、宮島はそれほどの雪が積もった記憶はないわね。そういう意味では、門・塀の文化は進んだのかもしれないわね。

マイク：宮島の塀はとてもきれいです。^{しょうけいやしき}上卿屋敷（林家）の表側の塀は漆喰壁^{しっくい}でとてもいいです。塀の屋根は金属板ですけど、昔からですか？



もみじ：昔は瓦だったのよ。中江町に土塀^{どべい}があるんだけど、あんな感じだったのよ。今、土塀はほとんどなくなってしまって、私はあの土塀の風情が好きなんだけど、保存できるといいわね。

伝太郎：土塀は維持管理が大変だろうね。職人さんはいるのかな。

もみじ：職種で言うと、^{さかんや}左官屋さんだろうけど、そもそも左官屋さんが少ないんじゃない。

マイク：去年見てきた四国の伝建地区では、^{やまとべい}大和塀がたくさんありました。宮島にも板塀がたくさん

ありますよね。

伝太郎：よくわからないけど、板塀はそんなに多くはないかもしれないよ。東町では直接道路に面した造りが多いから、門・塀は必要ないのかな。商売をしていることも関係しているかもしれないね。



マイク：そう言われると、宮島は商売をしている人が多いですね。塀があると商売になりませんね。なるほど、なるほど。

もみじ：町家の例は少ないけど、西町の社家なんかのお屋敷には門・塀が多かったはずよ。

伝太郎：建物の種類が多いからいろんなパターンがあったんだろうね。町家にも門のある家が数軒あるからね。風情があっていいよね。

マイク：この前建吉さんの手伝いで入った町家には、とても立派な門がありました。瓦も古いものが使ってあって、良い経験ができました。

もみじ：お父さんが聞いたら泣いて喜ぶわ。でも、

私もあの町家は好きな建物だわ。今回門の^{しかど}鹿戸も新しくなって、いい雰囲気が戻ったわ。お父さんが言っていた、「伝建が始まったら少しずつ昔の風情が戻る」ってこう言うことなのね。



【次回は瓦の特徴です】

今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和47年頃の商船棧橋付近です。汽船のりばは新しく港を埋め立てたため、東へ移動しました。役目を終えたこの汽船のりばは、その後「ろう人形館」やタレントショップなどに活用されました。また、左側の海上に、「第102松大丸」の姿が見えます。

下の写真は、現在の様子です。汽船のりばは、広島経済大学のセミナーハウス成風館となっています。右にある商店は、手前から「木村家本店」「ミヤトヨ本店」が変わらず営業しています。

棧橋の移転以外にも電線が地中化されたり、宿泊施設が4階建てに拡張されたり、街路樹の松が成長したりの変化が伺えますね。コロナ禍で、人通りが少ないのが寂しい限りです。



建物改修の補助事業【令和4年度の希望者募集】

令和4年度の修理・修景等を行う方は補助金を活用できます。市に相談してください。(令和3年度は既に締切り済)

補助対象：①特定物件として保存計画に登録されている建物の外観を復元する修理工事 ②伝建区域内にある①以外の建物の外観を古い町並みに合わせた新築・改修工事

応募締切：令和3年3月30日(火)

その他：令和5年度以降の工事を検討している方も事前に、ご相談ください。

お知らせ

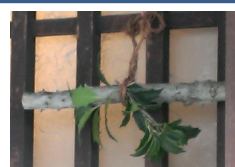
宮島まち家の会(仮称)の設立準備会

宮島の町家や町の成り立ちなどを、気軽に学習する集まりを、宮島まちづくり交流センターの登録クラブとして設立します。ご連絡の上、ご参加ください。

設立準備会：2月16日(火)13時30分から

宮島市民センター 3階研修室

連絡先：白水 TEL090-8066-8505



たわらくい

節分の邪気払い。タラの小枝にヒイラギの葉巻き付けたもの。玄関に掛けて刺で邪気の侵入を防ぎます。

まちなみ通信 No.21 (令和3年2月1日) 発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

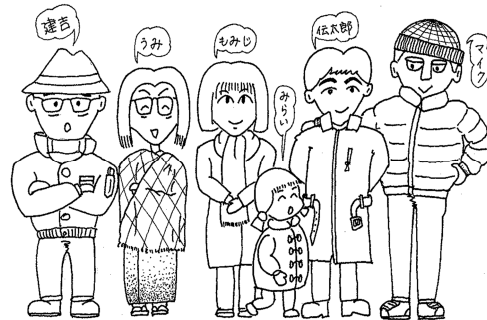
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年3月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.22

～島内にある 瓦 の紹介～



伝太郎：この前、「まちなみ通信」の記事はマニアックだねって言われたよ。

もみじ：今回は瓦の話でしょ。町家が^{さんかわらぶ}棧瓦葺きで、お寺や神社が^{ほんかわらぶ}本瓦葺きが多いぐらい、私でもわかるからマニアックにはならないでしょ。



マイク：瓦ですかあ。日本の瓦は種類やデザインがいろいろあって、見ていて飽きないですね。

伝太郎：そうかなあ。確かに鬼瓦や軒の瓦などデザインが多いような気はするけどね。

もみじ：そういわれると、昔「さるがわら」っていう棟瓦があるってお父さんが言ってたわね。
(令和2年3月 No. 10 号参照)



マイク：幸神社の鬼瓦に、厳島神社の御神紋「三ツ亀甲剣花菱紋」があって、日本の瓦職人はすごいと思いました。

伝太郎：よく気がついたね。それに、紋の名前まで知ってるなんて、マイクは宮島の歴史マニアになってきたね。



マイク：私はまだまだです。建吉さんはもっとすごいです。この前宝寿院に行った時、本堂の瓦の話の話を聞きました。

もみじ：だいぶ前の台風で屋根瓦がかなり痛んでいるのよね。そのことかしら。

マイク：そうじゃなくって。本堂は元々^{ごまどう}護摩堂という建物で、お堂の屋根は^{ほうぎょう}「方形」と言って、屋根が中央に集まる形式だそうです。その頂点にあるのが^{ろばん}「露盤」という大きな瓦で、一番上にある丸いのが^{ほうじゅ}「宝珠」という名前だ



そうです。ハウジュインのハウジュイン(イ)ネ。

もみじ：お父さんもすごいけど、マイクもそれを覚えていて説明できるのはすごいわね。だじやれもお父さん直伝かしら。

伝太郎：僕も一つだけ知ってることがあった。屋根の「シャチホコ」が魚なのは、火事にならないように水に関係している物ってこと。

マイク：そうです、そうです。建吉さん言っていました。宮島の町家には^{たつなみ}「立浪」と言う波をデザインした軒辺りにある^{すみぶた}隅蓋瓦があるそうです。



建吉さんに聞いた後、見に行きましたが、とてもきれいでした。日本の職人さんすばらしい。

もみじ：今度は瓦のデザインを見ながらの町歩きが楽しみになってきたわ。結局マニアックな話だったわね。

伝太郎：瓦だけに、かわらなかつたね。

もみじ：ちょっとお。力が抜けるじゃないの。

【次回は補助事業の報告です】

今昔写真を見比べて



© tsuneichi MIYAMOTO

撮影：宮本常一 提供：周防大島文化交流センター

本写真の著作権は保護されています。

本データの使用は、廿日市市歴史的建造物群保存対策調査に限り許可されており、それ以外の目的外使用には別途申請が必要です。

上の写真は、昭和40年代の町家通り（幸町西表）の様子です。駐車場は無く、家が隙間無く、軒を揃えて建ち並んでいます。突き当たりの旧支所に向かう「塔之岡隧道」は開通しています。

下の写真は、現在の様子です。電線の地中化により、スッキリした景観になっています。（コロナ禍の影響により人がいないのが、寂しい限りです。）

右の町家は、1階の木製建具のデザインが変わっています。左の「くま金商店」は、今も変わらず現在位置で営業していますが、隣の「タカキベーカリー」の看板は撤去され、パン屋は閉店しています。

また、交通標識や、空調の室外機が見えるようになり、生活の内部・外部に変化が見られます。



建物改修の補助事業【令和4年度の希望者募集】（再掲）

令和4年度の修理・修景等を行う方は補助金を活用できます。市に相談してください。（令和3年度は既に締切り済）

補助対象：①特定物件として保存計画に登録されている建物の外観を復元する修理工事 ②伝建区域内にある①以外の建物の外観を古い町並みに合わせた新築・改修工事

応募締切：令和3年3月30日（火）

その他：応募多数の場合には、優先順位により、時期の調整をさせていただく場合があります。また、令和5年度以降の工事を検討している方も、事前にご相談ください。

お知らせ

「みやじまの町家に親しむ会」

が誕生しました

宮島まちづくり交流センターの登録クラブとして設立されました。宮島の町家や町並みの学習や情報交換の場としての定例的な活動を行っていきます。入会を希望される方は下記までご連絡ください。

と き：毎月第二金曜日 13時30分

【第1回目は4月9日（金）】

ところ：宮島まちづくり交流センター

会 費：1,000円/月

連絡先：090-8066-8505（白水）

まちなみ通信 No.22（令和3年3月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

Tel (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999